

瀬戸内みらい会議（20代・30代）

平成 21 年 11 月 21 日（土）10 時～12 時

瀬戸内市役所 2 階 市長室

参加者：市内在住の 20 代、30 代 男性 2 名、女性 3 名

市民から出た意見と市長の反応

- ・大阪の大学に通い、瀬戸内市に帰ってきたが、JR の本数が少ないなど不便が目について、大阪に戻りたいと思った。地元はやさしい人が多く、時間の流れが都会に比べてのんびりしているのがいい。しかし、他の土地から引っ越してきた場合、息苦しさをを感じるかもしれない。
 - ・地域の集まりや付き合いがあるので、引っ越してきた人にとっては面倒と思うかもしれない。
 - ・交通の便が悪いところが多い。車が無いとどうしようもない。JR の駅から遠く、バスの便が少ない。ただし、車があれば特に不便を感じない。
 - ・母子家庭の知り合いがいるが、仕事がパートタイムのため収入が少ないので、市営住宅に住みたいと言っていた。
 - ・ブルーラインがあって車で岡山に行くのは便利。JR の本数は少ないと思う。
 - ・保育園に中々入れないと聞く。姉から 2 人目の子どもは、保育園へ入園するための条件が厳しいと聞いた。
- （市長） 邑久・福田など子どもの多いところは入園希望が多く、定員に余裕のある他の園に行ってもらうようお願いしなくてはならない状況にある。
- ・就職は外へ出たいと考えている。
 - ・北海道の学校に通っていた。親や親戚もいないので、戻ってきた。戻ってきて、北海道のよさを思い出すこともある。

- ・県立図書館のような大きい図書館がほしい。大学の図書館のような勉強できるスペースがあればなおよい。
- ・ネットで調べものができて、DVD 資料も見られる環境がいい。

（市長） 図書館は建物ができただけではだめで、中身が重要。意見を参考にする。また、新しい本や資料を買い続けなくてはいけない。運営についても方法を考えていく。

- ・ニート、引きこもりなど、働く意欲の無い若い人が増えてくると思う。青少年育成センターで、7 年間で約 100 人の子どもと関わったが、90 人くらいは元気に学校に行けるようになった。ただ、高校へ進学しても退学して引きこもる子がいる。また、長船駅でたむろしている子が 10 人くらいいる。

話を聞くと高校を辞めたとか、やることが無くて集まっているようだ。そんな子たちが働く場や、支援する制度を用意しないと、働く人がもっと減少する可能性がある。

(市長) 同級生で引きこもっている子はいいますか？

- ・ 当時不登校だった同級生の今はよくわからない。
- ・ 成人式は友達同士誘い合って来てくれたように思うが、友達のいない子は来づかったかもしれない。

(市長) 普段、どんな生活をしていますか？

- ・ 家は、寝るために帰っているようなもの。学校もアルバイトも岡山市にあるので、朝早く家を出て、終電で帰ってくる。地元の友達と遊ぶときも、遊ぶところやご飯を食べるところが市内に無いから、大体岡山市に出て行く。ファミリーレストランやファーストフード店が無い。居酒屋も少ない。ツタヤなんかもほしい。
- ・ 遊ぶところが無いのは青少年の健全育成にはいいかも、と思う。
- ・ 休みの日に瀬戸内市内にすることが少ない。遊びに行ったり、飲みに行ったりするのも岡山市。

(市長) 仮に、瀬戸内市内で飲んで、無料あるいは100円程度で家まで帰ることができるバスやオンデマンドタクシーなどがあったら、使うか？

- ・ 地元の人で飲むなら使う。岡山市に住む友達を連れてくることは難しい。
- ・ 仕事の都合などで岡山市にみんな集まることが多い。同窓会も岡山市内でやる。
- ・ 釣りをするにはいいところ。
- ・ 休みには家にいたり、青年自然の家などが主催する野外活動に参加したりしている。そこで、竹とんぼづくりや染物づくりなどをする。仕事に生かす意味もある。

(市長) 仕事を瀬戸内市内で、と考えたことはありますか？

- ・ 働くところが村田製作所くらいしかない、というイメージ。岡山市に近く、働く場は岡山市にたくさんあると思う。

ボランティア活動について

(市長) ボランティア活動をやっていますか？

- ・ 成人式の実行委員をやったが、連絡が帰ってこないため、参加者数の把握ができなかったこと、スタッフが少なかったことなど、運営が大変だった。
- ・ 地元の清掃とか、家から必ず一人出さないといけない。
- ・ ごみが多い。週に何回か清掃作業をしているが、タバコや食べ物の包装紙、レシートなどが落ちている。

- ・落書きも多い。農協倉庫の裏にある。
- ・例えば、友達が障害者になったら、介護のこととか関心を持つかもしれないが、今は身近でない、という意識があるかもしれない。友達がやっていることなどは関心を持つ可能性が高い。
- ・清掃に限らず、ボランティアは「やりたくない」「面倒くさい」という人が多い。「やろうよ」と声をかける人がいるのは大切だと思う。
- ・自分の生活で精一杯。ボランティアをする余裕があればやりたいと思う。
- ・アルバイトなどで時間がない。
- ・うらじゃ踊りのサークルでのボランティアなどは、参加者は多いが、やらない人はまったくやらない。やる人も、就職活動に有利に働くと思ってやるなど動機はさまざま。
- ・動機はどうあれやるのが大切だと思う。

(市長) ボランティアをやってよかったと思えるためには何が必要か。

- ・体験が他に役立つこと。
- (市長) ボランティアをすることで他人に認められたい気持ちはあるか。例えば、山陽新聞に載るとか。
- ・感謝されたらうれしい。ボランティアの成果や、感謝されていることが目に見える形で現れたらいい。
- ・会社で旭川荘の清掃ボランティアがある。企業にとっての対外的なイメージアップもあると思う。

(市長) 前の職場ではボランティア清掃の情報を社内に流していた。「うちの会社は、社会に貢献している」という社内のイメージアップにもつながると思う。

(市長) NPOなどで社会貢献を仕事にしていくことは考えられますか。

- ・ビジネスとして成立するかどうかわからない。

家庭を築いていくことについて

- ・両親など周りの助けがないと厳しいと感じる。
- ・経済的に一人の収入では厳しい。共働きなら可能かな、と思う。

その他

- ・祖母が尻海に一人で住んでいるが、一人だと何をするのも面倒になるらしく、ご飯もあまり食べず、誰ともコミュニケーションをとらなくなると聞く。結果、認知症の人が増えてくると思うので不安である。
- ・このような機会が増えれば、若い人たちがもっとまちのことを考えるようになると思う。

- ・議員の活動がよくわからない。人数がもっと少なくてもいいのではないか。
- ・南北道は必要なのか。無くても困らないと思う。
- ・道路工事が多い。

(市長) 下水道工事を実施しているため、現在工事が多い。南北道は土地を全て買ったので、そのまま放置するわけにはいかない。どう利用するか、考えたいと思っている。